



～脳ドックの検査をうけてみてはいかがでしょう～

脳梗塞、くも膜下出血など……。知り合いの方や、あるいは芸能人がこれらの病気にかかったことを聞かれたことがあると思います。いずれも、普段の生活習慣の取り組みや、高血圧、高脂血症等の治療または検診による早期発見で、病気が起こらずに済んだかもしれません。



脳ドックはMRI検査を行います。それでは、この脳のMRIで何が分かるのでしょうか？

I 脳の内部の小さな梗塞や虚血が分かります。これらは将来的に、認知症・脳卒中などの原因となり得るものです。

梗塞：血管が詰まって脳組織が壊死する。
虚血：血の巡りが悪いが、梗塞にはなっていない。

II 脳の動脈の状態を見ることが出来、詰まり（梗塞）、狭い（狭窄）、そして危険性の高い動脈瘤を発見することができます。

動脈瘤は血管が瘤状に膨らむもので、徐々に大きくなり不幸にも破裂することがあります。破裂した場合にはくも膜下出血という状態になります。激しい頭痛を伴い、2～3人に1人は亡くなってしまいます。生存しても、重い後遺障害が残る可能性がかなり高い疾患です。日本脳神経外科学会での調査、当健診センターのデータもほぼ同じで、受診者の3～4%の人に動脈瘤が見つかっています。

III 偶然、脳腫瘍が見つかることもあります。

～2025年には高齢者の5人に1人が認知症に！！～

厚生労働省の2015年1月の発表によると、日本の認知症患者数は2012年時点で約462万人、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されています。

認知症の前段階とされる軽度認知障害と推計される約400万人を合すると、高齢者の約4人に1人が認知症あるいはその予備群と言えます。

団塊の世代が75歳以上となる2025年には認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占める見込みです。

認知症は高齢者だけの病気ではありません。

65歳未満で認知症を発症する“若年性認知症”はアルツハイマー病が多く、特に40代50代の働き盛りで起こると老年性認知症よりも早く進行し、症状も重くなる傾向があります。

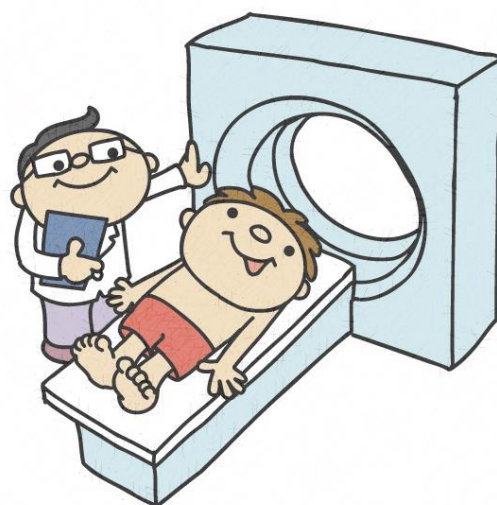
認知症を防ぐ方法はないの？！

現在の医学では、殆どの認知症を治すことは出来ません。（手術や内服薬で治る認知症状もあります。）但し、早い段階に対処すれば、内服薬やその他の治療などで進行を遅らせ、また状態を安定させることが出来ます。

早期発見が大切です！！

相模原総合健診センターの物忘れドックでは、認知症の約7割を占めるアルツハイマー病を

- MRI検査（海馬の萎縮を見る）
 - 認知機能検査（面談形式の簡単なテスト）
- によって調べています。



これらの検査で、アルツハイマー病の疑いや、危険性を発見することができます。現在、脳ドックのオプションとして行われており、25分程度で検査が可能です。

相模原総合健診センターの脳ドックは、全国にまだ少ない『日本脳ドック学会認定施設』です。

是非、健診をご受診される機会に脳ドックを一緒にうけてみてはいかがでしょうか。